satogawa

No. 9
2011. 8

特集
Bird Walk
海まで歩いて
鳥を知る！

コラム
かたつむりらぼ
第2回

予告
9月18日
さとKawaあそび
川の生きもの探し
＆モニタリング

手稲山の森やそこから流れる川をフィールドに親子で楽しむ自然体験活動　手稲さと川探検隊

特集　Bird Walk

さとmari＆さとKawaあそび2
山・川・平地・海

鳥の隠れ家さがし
～海まで歩いて鳥を知る！

三樽別川⇒新川河口（１０km）

２０１１年5月１４日（日）

予想以上に多くの人が参加してくれて、眠い目をした子ども達が遅刻もせずに集まってくれた。始めにカッコウの森では、森の中に住んでいる鳥を探す。まだ木には葉っぱが少なく、冬から春へ変りつつある森の中は鳥を探すには丁度良い季節だ。歩いてみるとチチッという声やカッコウカッコウと鳴く声が聞こえる。アオジやカッコウが鳴く声。しかし、どこにいるのか姿を見ることができない。せっかくの双眼鏡を使う機会がなかなかない。カッコウの森をずんずん進んで行くと三樽別川の渓流らしい姿と川の音が聞こえてくる。その時誰かが「青い鳥！」と叫んだ。バサッと飛び立った鳥は、ルリビタキという鳥で背中が青くお腹が少しオレンジ色である。カッコウの森を出て三樽別川を下って行くと、最初のチェックポイントの三樽別公園である。そこで待ち構えていた後藤さんからとっておきのシールがもらえる。ぷよぷよした素敵なシールが大人気だ。このシールを集めゴールの日本海を目指す。三樽別公園を出て、川沿いを歩いていくと、いくつもの落差工が連続しており、魚達にとっては、川を上ったり下ったりすることがとても難しそうな川であると感じられる。気が付くと頭の上にはツバメがたくさんいることに気が付いた。素早い動きで川スレスレを飛び、追いかけっこをして遊んでいる。よくぶつからないで飛ぶことが出来ると感心してしまう。そして、とても気持ち良さそうにビュンビュン飛んでいる。

５号線を渡ると周りはマンションや住宅など人が普段から生活しているエリアになってくる。街の中でも鳥達はいる。ゴミ箱を見つめるハシブトガラス。家庭菜園の庭で遊ぶスズメ。住宅地を滑空するヒヨドリたち。シティー派な彼らは。人間をじっと観察して餌のありかを見つけ出す。自然の中よりも街の中の方が餌探しが楽なことを知っている賢いやつだ。

街の中をどんどん進んで行くとＪＲ橋が見えてきた。いつもは電車で橋の上を通るが、今回は橋の下を通り歩いていく。すると、川が合流して三樽別川は中の川へと名前を変えてゆく。河畔は草刈が終わり草地性のノビタキが餌を探して飛び回っている。

いつも川遊びをする共栄橋は真新しい姿になっていて少し雰囲気が変って見える。ヤナギの木が川の横に生えてるところにはアオジやカワラヒワがなかなか顔を出してくれない。人間に見つからないように隠れんぼしているのだ。築提の上の木のてっぺんにはベニマシコが真っ赤な顔してヒッポヒッポと鳴いているのを見つけた。光の向きなのか離れたところで見ていた人達には真っ黒でよく見えないらしい。見たいからと近寄ってみると、逃げられてしまった。そのうち、軽川と合流し新川へとつながる。川が大きくなっていくにつれて風がビュービューと吹く。新川に合流すると川の流れはとってもゆっくりになり、水面ではコガモの親子が休んでいる。風が強いのか鳥達の姿は見えない。新川は人工に作られた川。まっすぐな川で海から吹いてくる強い風にのってオオセグロカモメが私たちと反対に上流へと飛んでゆく。キンクロハジロは水面にぷかぷかと浮かび黄色の目で私たちを見つめる。札幌市と小樽市の境目にはオロロンラインが通っていて、そこからは砂利道へと変り、疲れた私たちにさらに追い打ちをかける。あと少し！あと少し！と励まし合って歩みをすすめるが、次第に雨がパラツキだした。過酷な条件の中クライマックスへと近づき、自然は必死に盛り上げようとしているのかも知れないが、私たちにとっては苦痛以外のなにものでもないのだ。ついに見えた広い海は白い荒波を立てて待っていた。小さい子どもも大きい大人も、誰一人脱落することなくゴール出来た。最後のシールを貼った瞬間の達成感と疲労感は海よりも壮大かもしれない。今回見られた鳥は全部で8目１７科２８種。手稲の真ん中を流れる三樽別川、中の川、新川は魚だけじゃなく鳥たちの行き来のルートになっている街中の川を甘く見てはダメですね。身近なところにも生きものは沢山いて、人間に分からないように隠れて生きている。また、探しに行きましょう。今度は１０kmはやめとくので・・・。

記事・写真　笹森健太

2011年6月4日
さとKawaあそび3
手稲山麓の川で生きものさがし＆ハルニレ種まき
（コープさっぽろ共催）

手稲山麓から流れる中の川と三樽別川で川の生き物さがしをしました。またモニタリング調査も同時に行いました。今回はハルニレのタネが今年豊作という事もあり、まず手稲山でハルニレの種取りも体験。取った種は森づくりの一環としてその場で育苗箱に種まき。蒔く際の注意、土のかけ方、水のやり方等の説明も受けます。これが苗になったらまた手稲の山へ植えに行きます。出来れば是非今回のメンバーで行きたいですね。自分の手で採って植えた苗を自分の手で森に返すというつながりを感じられると思います。三樽別川は石や岩がごろごろしていてとても滑りやすい川で、流れが速い所も深い所もあり、慣れるまで時間がかかりますが、初めての子どもでも自分の力でずんずん入って行ける様になっていきます。この川ではハナカジカや水生昆虫のカワゲラの仲間、モイワサナエ、ヒラタカゲロウなどの生き物が見られました。新スタッフで、北大環境科学院の渡辺さんから、専門の水生昆虫について詳しいお話も随所で聞く事が出来ました。場所を変え、中の川でも生きもの探し。場所が変れば生息する生き物も変ります。この川ではスナヤツメ・ヌマチチブ・ヨシノボリ・ヨコエビやモクズカニなども見られました。

2011年6月11日
奥手稲山の家と植樹ツアー
（北大元気プロジェクト）

北大元気プロジェクトとして開催された山小屋ツアーにさと川も参加しました。奥手稲山の家は1930年に旧国鉄によって建てられました。去年修復工事のために作られた臨時作業道を自然復元させるために植樹を行ったものです。主催は北大元気プロジェクト2011奥手稲山の家を知ろう実行委員会。共催は北大ワンダーフォーゲル部。山小屋までの道を虫取りをしながら歩いたり、植樹をしたり、道のりは長かったけれど退屈しませんでした。春の花（エゾエンゴサクやエゾツツジ、シラネアオイなど）も見られ、雪で道がふさがれていたり、小雨が降ったかと思ったらぱーっと晴れてきたり。山は色々な顔を持っていて面白いです。小屋についてからも山菜取りなども出来、充実の一日でした。

次回予告
9月18日さとKawaあそび6
川の生きもの探し＆
水生生物モニタリング調査

第2回　かたつむりらぼ

記事・写真　姫田　丞

かたつむりの種類

前回はカタツムリの体について紹介しました。殻があって、角があってなど、そして今回はそのカタツムリのなかにもいくつかの異なった種類がいるので、そのカタツムリの種類について紹介します。よくカタツムリを見る人はいくつかの異なったカタツムリがいることをを知っているでしょう。札幌近郊で見られる主なカタツムリは5種類です。この5種類の内、森で見られる種類はエゾマイマイ、サッポロマイマイ、ヒメマイマイの3種類、住宅や庭や草地、農地で見られるカタツムリは、ウスカワマイマイ、オカモノアラガイの2種類です。ここでは森で見られる3種類のカタツムリを中心に紹介していきます。この3種類の見分け方ですが殻が茶色で巻き数が少なければエゾマイマイです。殻が白（縞があったりなかったりします）だと、サッポロマイマイ、または、ヒメマイマイです。このうち体（軟体部）が白ければヒメマイマイ、黒い縞があればサッポロマイマイです。森に出かけてカタツムリに出会う機会があれば観察してみてください。

さて、次回ですが、カタツムリの食事について紹介する予定です。カタツムリたちはどんなものをどのようにたべているのでしょうか。

お問い合わせ　　手稲さと川探検隊　代表　鈴木　玲

Mail　t-satogawa@mail.goo.ne.jp
Tel　080-1891-7847
HP　http://www.spporo-web.com/satogawa/